

市議会議員
木下安子

調布・生活者ネットワーク
〒182-0022 調布市国領町 8-1-13
TEL/FAX: 042(487)3087
email: waku2seikatusha@mpd.biglobe.ne.jp
HP: http://chofu.seikatsusha.me/

活動レポート第141号 2023.7.25
発行責任者 八木昭子

第二回定例会 一般質問

PFAS 汚染問題への対応強化を



分かりやすい情報提供を！

PFASは約4700種類あると言われる、人工的に作られた有機フッ素化合物の総称だ。「永遠の化学物質」と呼ばれ、生活環境や健康への影響が懸念されている。調布市では、汚染度が高い上石原配水所の水源井戸2本からの取水を止めている。「自分はどこの浄水場の水を使っているのか？」「使っている水道水は大丈夫なのか？」といった問合せが増えているため、市のHPでの分かりやすい情報提供を求めた。

なお、自宅の水道の配水所の調べ方や水質データは木下のブログでも発信している。市と協働で情報発信に努めたい。

調布の地下水は？

地下水は市民の大切な財産である。また、地下水汚染は土壌汚染にもつながることから、実態把握が必要だと考え、小中学校の防災井戸などを中心に、国分寺市が行っているような市独自の水質調査を求めた。必要な調査について検討するとの答弁であった。

市民のPFAS 血中濃度は？

2月に市民団体の調査で、21名の調布市の有志がPFASの血中濃度を測定した。4つのPFASの合計平均値は、21.9ng/ml。2021年に環境省が行った全国調査の平均値8.7ng/mlも、米国アカデミーが警鐘を鳴らす20ng/mlも超える結果となった。報道もされており、市内では血液検査を求める声が上がっているため、市に対応を求めた。国の基準や指針がないため、市として検査を実施する意向はなく、都や国に対応を求めるとの答弁にとどまった。

若い女性が主体的に健康を守るには

HPV ワクチンの重篤な副反応

国は、昨年4月からHPVワクチンの積極的勧奨を再開している。厚労省は名称を「HPV予防ワクチン」に変更したが、薬剤は従来と変わっていない。従来の2価、4価ワクチンは、接種後の副反応疑い報告頻度が他の定期接種の合計平均の8.3倍、うち重篤なものは7.4倍という高さだ。さらに、9価ワクチンは成分が約2倍、免疫増強剤も2.2倍で、厚労省のリーフレットによると、重篤な副反応発生率は2価、4価よりも高い。答弁では、重篤な副反応に関する調査研究などが途上であるという認識や、被害を発生させたくないという市の思いを確認することができた。今後も、副反応被害を起こさないため、効果とリスク両面の正確な情報提供を求めていく。

市と学校で性教育の推進を

HPVウイルスは主に性交渉で感染する。そのため、接種対象の中学1年生頃の女の子が主体的に接種について考えるには、性教育が欠かせない。しかし現在、学校で性交渉を教わるのは高校生になってからだ。市は発達段階の早期からの性教育の必要性を認識していることが確認できたため、市としても年齢に応じた性教育の出前講座を設けるよう求めた。

検診と HPV 検査で予防する

HPVウイルス感染の検査は(特に陽性の場合)、定期的子宮頸がん検診を受ける動機づけとなり、予防につながる。出雲市では検診とHPV検査の併用で子宮頸がんをほぼ撲滅した経緯があり、市のHPVセルフチェックの効果が期待される。

2021年度の市内の子宮頸がん受診率は都平均の20.9%も大きく下回る9%。それが自己検査キットを配布してから、10人だった23、24歳の検診受診者数が、2022年度は93人に増加したとのこと。希望者は、子宮頸がん検診の際にHPV検査を同時に受けられるよう、体制の拡充を求めた。

子宮頸がんに関わる各取組みのスケジュール (2023年7月現在)

★性交渉開始後はHPV検査と子宮頸がん検診を受けましょう★

HPVワクチン	中1	1997.4.2～2007.4.1までに生まれた女性					
	案内*	案内(キャッチアップ接種) (2022年4月～2025年3月までの3年間)					
子宮頸がん検診	×	16～19歳	20歳	21歳	22歳	23～24歳	22・25～29歳
		×	推奨の案内	無料クーポン	推奨の案内**	推奨の案内	推奨の案内**
HPVウイルスセルフチェック	×	×	対象	×	×	対象	×

*案内は中1の時に送付されますが、高校1年生にあたる女子までが定期接種対象です。 **申込者には、受診期間中に再受診勧奨をしています。